

令和2年度「学びについての調査」報告書

報告者 田中健史朗

(教育学部幼小発達教育講座・准教授)

1. 調査内容

生徒の学びを「①学習におけるメタ認知活動」、「②学習に対する動機づけ（やる気）」、「③スクールエンゲージメント」という3つの観点から調査した。

(1) 学習におけるメタ認知活動

学習におけるメタ認知活動とは、現在の学習状況を考慮し、後の学習の進行を調整する方略である（佐藤，1998）。これは、文部科学省が掲げる主体的な学びにおける「見通しをもって学習」、「自己の学習活動を振り返って次につなげる」と関連する概念である。中学生を対象とした研究において、この得点が学業成績を予測することが証明されている（西村・河村・櫻井，2011）。そのため、学習におけるメタ認知活動を測定した。

学習におけるメタ認知活動を測定するため、市原・新井（2006）の中学生用メタ認知活動尺度を使用した（Table 1）。それぞれの項目について、「1. 全く当てはまらない（1点）」から「4. とても当てはまる（4点）」の4件法で回答してもらった。教示文は、「あなたの学習の仕方についてお尋ねします。以下の質問項目についてどの程度当てはまりますか。」であった。

Table 1. 学習におけるメタ認知活動を測定する項目（9項目）

-
1. 学習している時に、やっていることが正しくできているかどうかを確かめますか？
 2. 学習を始める前に、これから何をどうやって学習するかを考えますか？
 3. 学習する時は、どんな内容なのかを考えてから始めますか？
 4. 学習する時は大切などころはどこかを考えながら学習しますか？
 5. 学習する時は最初に計画を立ててから始めますか？
 6. 学習する前に、これから何を学習しなければならないかについて考えますか？
 7. 学習している時、たまに止まって、一度やったところを見直しますか？
 8. 学習している時、自分がわからないところはどこかを見つけようとしていますか？
 9. 学習している時、やった内容を覚えているかどうかを確かめますか？
-

(2) 学習に対する動機づけ（やる気）

学習に対する動機づけは、文部科学省が掲げる主体的な学びにおける「学ぶことに興味や関心をもつ」、「自己のキャリア形成の方向性と関連づける」と関連する概念である。そのため、学習に対する動機づけを測定した。自己決定理論（Deci & Ryan, 2002）によると、動機づけは自律性の程度によって「①外的調整」、「②取り入れている調整」、「③同一化的調整」、「④内的調整」に分類されている。そのため、今回の調査においても、動機づけを4つの種類に分けて調査する。それぞれの動機づけの特徴を Table 2 に示す。

Table 2. 動機づけの種類

-
- ・外的調整:報酬の獲得や罰の回避,または社会的な規則などの外的な要求に基づく動機づけである。
 - ・取り入れ的調整:自我拡張や他者比較による自己価値の維持,罪や恥の感覚の回避などにに基づく動機づけである。
 - ・同一化的調整:活動を行う価値を認め,自分のものとして受け入れている状態を表す動機づけである。
 - ・内的調整:興味や楽しさに基づく従来の内発的動機づけに相当し,最も自律性の高い動機づけである。
-

同一化的調整と内的調整の動機づけは,自律的な学習動機とされ,学業成績を予測することが証明されている (Guay & Vallerand, 1997)。一方,外的調整の動機づけは,学業成績に負の影響を与えることが証明されている (西村・河村・櫻井, 2011)。

学習に対する動機づけを測定するため,西村・河村・櫻井 (2011) の中学生用学習動機づけ尺度を使用した (Table 3)。それぞれの項目について,「1. 全く当てはまらない (1点)」から「5. とても当てはまる (5点)」の5件法で回答してもらった。教示文は,「あなたの学習する理由についてお尋ねします。以下の項目は,あなたが学習する理由にどのくらいあてはまりますか。」であった。

Table 3. 学習に対する動機づけを測定する項目 (20項目)

<内的調整>

1. 問題を解くことがおもしろいから
5. むずかしいことに挑戦することが楽しいから
9. 学習すること自体がおもしろいから
13. 新しい解き方や,やり方を見つけることがおもしろいから
17. 自分が学習したいと思うから

<同一化的調整>

2. 将来の成功につながるから
6. 自分の夢を実現したいから
10. 自分の希望する高校や大学に進みたいから
14. 自分のためになるから
18. 学習するということは大切なことだから

<取り入れて的調整>

3. 学習で友だちに負けたくないから
 7. 友だちより良い成績をとりたいから
 11. まわりの人にかしこいと思われたいから
 15. 友だちにバカにされたくないから
 19. 学習ができないとみじめな気持ちになるから
-

<外的調整>

4. やらないとまわりの人がうるさいから
 8. まわりの人から、やりなさいといわれるから
 12. 成績が下がると、怒られるから
 16. 学習するということは、規則のようなものだから
 20. みんながあたりまえのように学習しているから
-

(3) スクールエンゲージメント

スクールエンゲージメントとは、学校生活における様々な活動への主体的で積極的な関与や心理状態を表す概念である (Wang & Fredricks, 2014)。このスクールエンゲージメントは、「感情的」、「行動的」、「認知的」の3つの側面があることが示されている。それぞれの側面の特徴については Table 4 に示す。

Table 4. スクールエンゲージメントの種類

-
- ・ 感情的：教師や友人に対するポジティブな感情や学校への同一視と関連する。
 - ・ 行動的：学校における様々な活動に対する重要性の理解や関与と関連する。
 - ・ 認知的：学習への心理的投資や学習方略と関連する。
-

感情的・行動的エンゲージメントは、学校適応と関連があることが示されており、この得点が低いと不登校や問題行動のリスクが高まるとされている (Wang & Fredricks, 2014)。一方、認知的エンゲージメントは、学業成績を予測することが証明されており (Fredricks et al., 2004)、この概念は文部科学省が掲げる主体的な学びにおける「粘り強く学習する」、「関連づけて学習する」と関連する概念である。そのため、今回の調査ではスクールエンゲージメントも測定することとした。

スクールエンゲージメントを測定するため、藤原 (2020) の中学生用スクールエンゲージメント尺度を使用した (Table 3)。それぞれの項目について、「1. 全く当てはまらない (1点)」から「5. とても当てはまる (5点)」の5件法で回答してもらった。教示文は、「あなたの学校生活についてお尋ねします。今の学校生活をふり返って、以下の質問は、あなたの気持ちにどの程度当てはまりますか。」であった。

Table 5. スクールエンゲージメントを測定する項目 (15項目)

<感情的エンゲージメント>

1. 私には学校に居場所がある。
 4. 友人や先生は私をサポートしてくれる。
 7. 私が学校に行くことを楽しみにしている。
 10. 学校に行くことを楽しみにしている。
 13. 学校生活は充実していて、1日があっという間に過ぎてしまう。
-

<行動的エンゲージメント>

2. 学校の学習で成果を上げることは、将来の自分のためになると思う。
5. 学校での様々な活動は重要だと思う。
8. 学校での様々な活動で成功することは、私にとって重要である。
11. 良い成績を取ることは私にとって重要である。
14. 学校以外で大変な時でも、学校での活動には頑張って取り組んでいる。

<認知的エンゲージメント>

3. 分からないことがあった時は、それを理解するために努力している。
6. 自宅でも学習している。
9. テストのための自分なりの学習方法を知っている。
12. 学校で学んでいる事について、より多くの知識を得ようとしている。
15. 新しいことを学ぶとき、これまでに学んだことと関連づけて理解しようとしている。

2. 調査時期

2021年3月に Google フォームを用いて実施した。

・調査に用いた Google フォーム：<https://forms.gle/x6RhUPv5cgKoTvJx7>



3. 調査協力者

山梨大学教育学部附属中学校の生徒 437 名（1年生：146 名，2年生：137 名，3年生：154 名）から回答を得られた。

4. 調査結果

(1) 平均値と標準偏差

学習におけるメタ認知活動，学習に対する動機づけ，スクールエンゲージメントのそれぞれの得点の平均値と標準偏差を算出した（Table 6）。

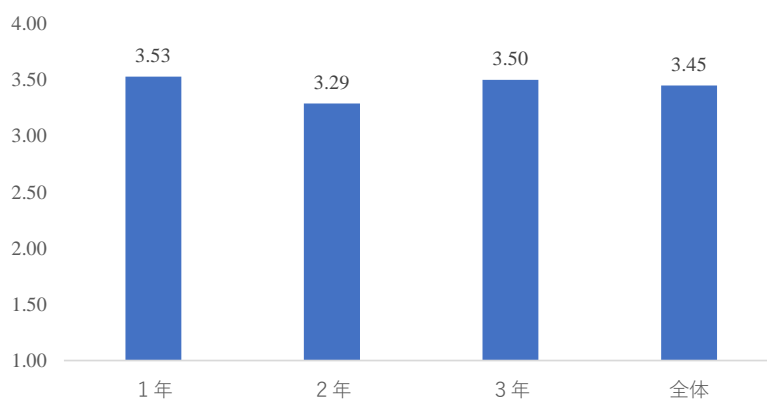
Table 6. 各学年ごとの従属変数の平均値，標準偏差および分散分析の結果

従属変数	1年生 (n =146)		2年生 (n =137)		3年生 (n =154)		F 値	多重比較
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差		
<メタ認知活動>								
メタ認知活動	3.53	.38	3.29	.56	3.50	.49	9.87 ***	1年生，3年生 > 2年生
<動機づけ>								
内的調整	3.70	.89	3.29	1.15	3.51	1.03	5.56 **	1年生 > 2年生
同一化的調整	4.36	.71	4.17	.81	4.38	.74	3.20	
取り入れ的調整	3.52	.84	3.35	.91	3.27	1.10	2.70	
外的調整	2.94	.92	3.25	.90	3.01	1.01	4.33 **	2年生 > 1年生，3年生
<スクールエンゲージメント>								
感情的	4.28	.74	3.91	.94	4.35	.76	12.00 ***	1年生，3年生 > 2年生
行動的	4.55	.54	4.21	.81	4.50	.66	10.02 ***	1年生，3年生 > 2年生
認知的	4.27	.66	3.88	.85	4.32	.70	15.43 ***	1年生，3年生 > 2年生

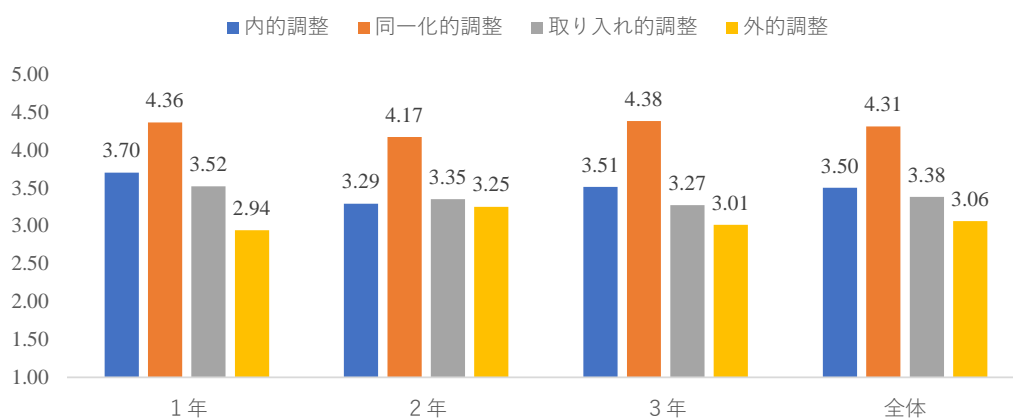
** $p < .01$, *** $p < .001$

また、以下に平均値のグラフを掲載する。

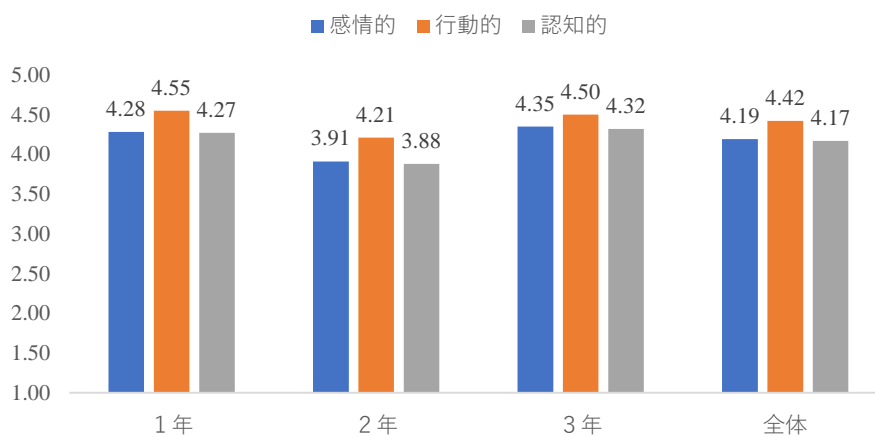
メタ認知活動得点の平均値



動機づけ得点の平均値



スクールエンゲージメント得点の平均値



(2) 学年による違い

学習におけるメタ認知活動、学習に対する動機づけ、スクールエンゲージメントのそれぞれの得点

が学年によって異なるかを検討するため、それぞれの得点を従属変数、学年を独立変数とした1要因分散分析を行った (Table 6)。その結果、メタ認知活動、内的調整、外的調整、スクールエンゲージメントにおいて、学年による主効果がみられた。多重比較を行った結果、他の学年と比較して、2年生のメタ認知活動得点、スクールエンゲージメント得点が有意に低いことが明らかになった。また、他の学年と比較して、2年生の外的調整の得点が有意に高いことが明らかになった。さらに、2年生の内的調整の得点は、1年生と比較して有意に低いことが明らかになった。

5. 感想

- ・主体的な学びと関連する変数を調査したが、附属中学校の生徒さんが回答としては、すでに主体的な学びが出来ているという結果であった (あくまでアンケート調査ではあるが) (調査方法の工夫の余地はあったかもしれない)。
- ・2年生 (現3年生) が他学年と比較すると主体的な学びの伸びしろがあるかもしれない。
- ・自律的な学習動機とされる同一化的調整の得点は非常に高いが、同じ自律的な学習動機とされる内的調整の得点はそこまで高くはない。そのため、学習内容の価値は理解できているが、学習すること自体への楽しさを感じてもらおうという点については、介入の余地があるかもしれない。
- ・スクールエンゲージメントのなかでは、主体的学びと関連する認知的エンゲージメントの得点が他の変数よりもやや低い。
- ・本報告書には細かすぎて掲載できなかったが、項目ごとに得点を分析してみると、以下の項目の得点が相対的には低い得点であった (あくまで相対的であるが)。

<メタ認知活動>

① 学習する時は、どんな内容なのかを考えてから始めますか? ... (平均値 3.17)

⇒今から学習する内容や取り組む課題のアウトラインや、その單元における本授業位置づけ、単元間のつながり、他教科や現実世界とのつながりを考えさせたり、解説したりしてから授業をスタートするという介入が考えられる。宿題もただ行うだけでなく、上記のことを意識しながら実施できると良い (理想)。

② 学習している時、たまに止まって、一度やったところを見直しますか? (平均値 3.29)

⇒学習活動を途中で、学習方略を見直したり、学習過程を振り返る時間を設ける。

<動機づけ>

③ 学習すること自体がおもしろいから (平均値 3.37)

④ 学習するということは大切なことだから (平均値 4.23)

⇒何かのためではなく、ただその学習活動自体を楽しめる工夫をする (ゲーム要素を入れた活動を時々取り入れるなど)。

<スクールエンゲージメント>

⑤ 自宅でも学習している (平均値 4.20)

⇒家庭学習を促す。家庭学習の動機づけを高める。

⑥ テストのための自分なりの学習方法を知っている (平均値 3.91)

⇒自分の特徴にあった学習方略について考える、試してみる機会をつくる。

⑦ 学校で学んでいる事について、より多くの知識を得ようとしている (平均値 4.15)

⇒授業で扱った学習内容をより発展的に知ることができるツールを紹介する（関連する Web サイトやニュース、文献、施設等を紹介するなど）。

⑧ 新しいことを学ぶとき、これまでに学んだことと関連づけて理解しようとしている（平均値 4.16）
⇒授業のなかで、その単元における本授業位置づけ、単元間のつながり、他教科や現実世界とのつながりを考えさせたり、解説したりする。

6. 引用文献

Deci, E. L., & Ryan, R. M. (Eds.) (2002), *Handbook of self-determination research*. Rochester, NY: University of Rochester Press.

Fredricks, J. A., Blumenfeld, P. C., & Paris, A. H. (2004). School engagement: Potential of the concept, state of the evidence. *Review of Educational Research*, 74, 59–109.

藤原和政（2020）．中学生用スクールエンゲージメント尺度の作成，*心理学研究*，91, 125-132.

Guay, F., & Vallerand, R. J. (1997). Social context, students' motivation, and academic achievement: Toward a process model. *Social Psychology of Education*, 1, 211-233.

市原学・新井邦二郎（2006）．数学学習場面における動機づけモデルの検討ーメタ認知の調整考査ー，*教育心理学研究*，54, 199-201.

西村多久磨・河村茂雄・櫻井茂男（2011）．自律的な学習動機づけとメタ認知的方略が学業成績を予測するプロセスー内発的な学習動機づけは学業成績を予測することができるのか？ー，*教育心理学研究*，59, 77-87.

佐藤純・新井邦二郎（1998）．学習方略の使用と達成目標及び原因帰属との関係，*筑波大学心理学研究*，20, 115-124.

Wang, M. T., & Fredricks, J. A. (2014). The reciprocal links between school engagement, youth problem behaviors, and school dropout during adolescence. *Child Development*, 85, 722–737.